

計量魚群探知機による日本海北部 スケトウダラ調査速報

北海道立中央水産試験場・北海道立稚内水産試験場

- ・44° N 以北のスケトウダラの分布量は 2002 年の約半分と少なく、最低水準の 2005 年よりやや多い程度であった。
- ・共同堆や小樽堆の周辺海域にスケトウダラの分布がやや多かった。
- ・小樽堆付近のスケトウダラは体長 20cm 前後の魚が主体であった。

1. 調査海域と期間

2006 (平成 18) 年 8 月 28 日から 9 月 1 日にかけて武蔵堆周辺の海域で稚内水試試験調査船 北洋丸で計量魚群探知機 EK60 を用いてスケトウダラの分布調査を行いました。

2. スケトウダラ魚群の分布

計量魚群探知機 EK60 によって得られた、1 マイル毎に算出した S_A (注 1) 値をもとに、調査海域におけるスケトウダラの S_A 分布図を 2002 年と 2005 年に同時期に実施した結果と併せて図 1 に示しました。

この調査では武蔵堆南部の共同堆周辺や小樽堆周辺で比較的高い反応が認められましたが、全般に 2002 年より少ない結果となりました。ただし、2002 年以前の調査より調査面積が狭いため、44° N 以北海域の平均 S_A を比較すると今年の武蔵堆周辺海域のスケトウダラの分布はそれほど多くない 2002 年の約半分とかなり少なく、最低水準の 2005 年よりやや多い程度と考えられます。

3. 漁獲されたスケトウダラの体長

2 ヶ所でトロール調査を実施しました。留萌沖の小樽堆南東沖の水深 343 ~ 355m の海域では体長 20cm 前後のスケトウダラが多く漁獲されました。また小樽堆北東沖の水深 333m の海域でも同様に体長 20cm 前後のスケトウダラを中心に漁獲されました (図 2)。

4. 海洋観測

トロール調査点で海洋観測を実施しました。小樽堆南東の St.1 は表面 ~ 300m まで 2002、2003、2005 年並みか高めでした (2004 年のデータなし)。小樽堆北東の St.2 は全体に St.1 より 1~2 低い水温でした (図 2)。

最後に主な調査ラインの魚探反応図 (エコグラム) を載せてあります

注 1) S_A : 海底 1 マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表し、魚群分布量の指標となる。

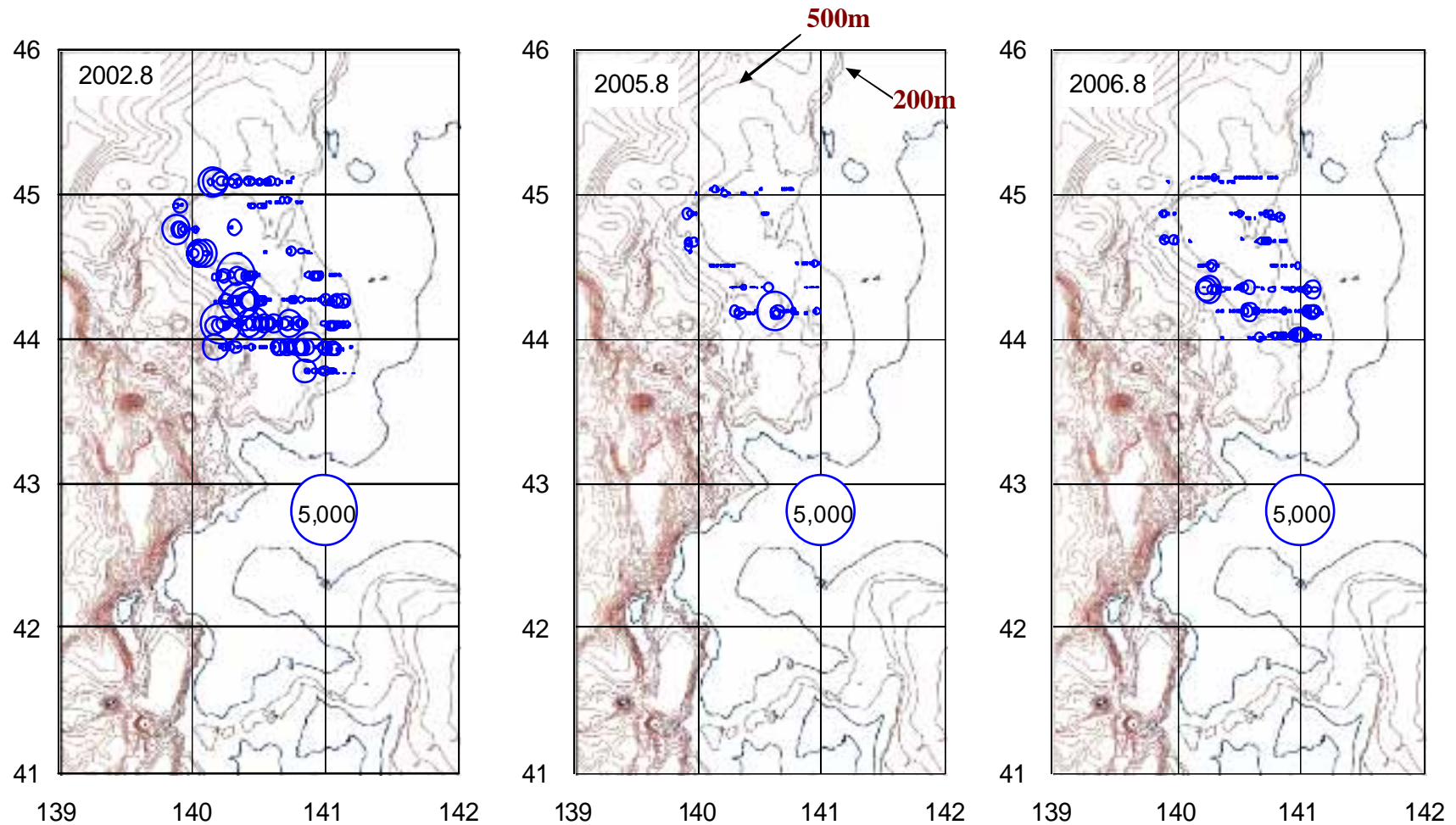
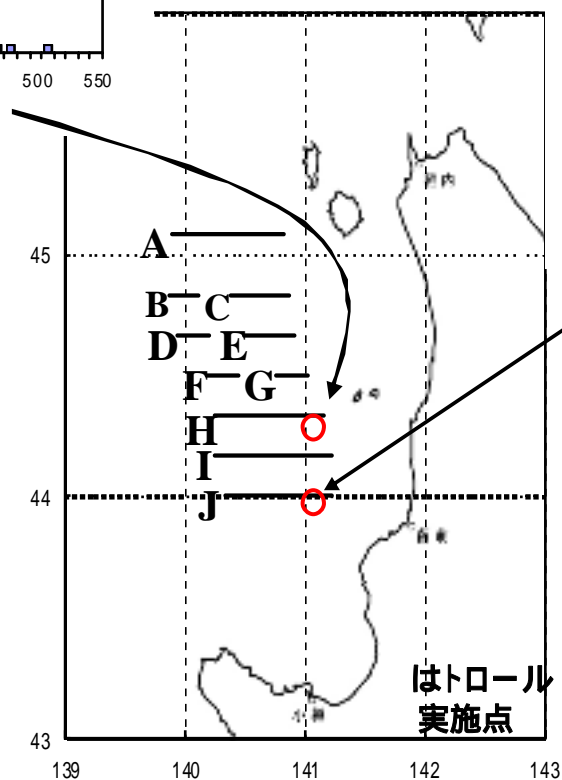
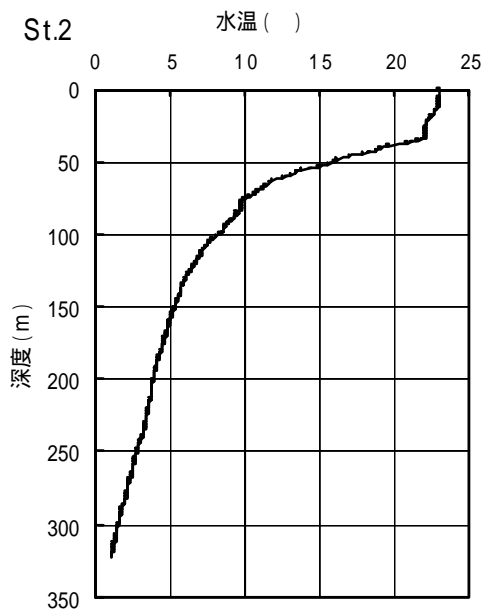
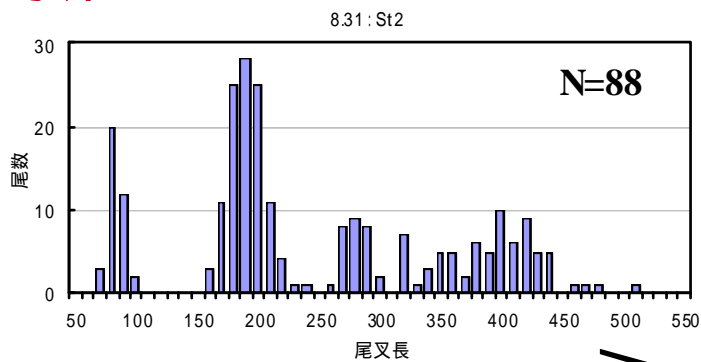


図1 今回と2002、2005年の魚群分布の比較

魚探反応量はSA(m^2 / NM^2)

2006年の反応量は2005年より多いものの、2002年より少ない
 2006年は共同堆付近や小樽堆の南側及び東側の反応が多かった

ホッコクアカエビ、スケトウダラ、
ウロコメガレイ、アカガレイ、ヒレグロ、ニシンなど
水深333m



ウロコメガレイ、ホッコクアカエビ、
スケトウダラ、アカガレイ、ニシン、ヒレグロなど
水深343-355m

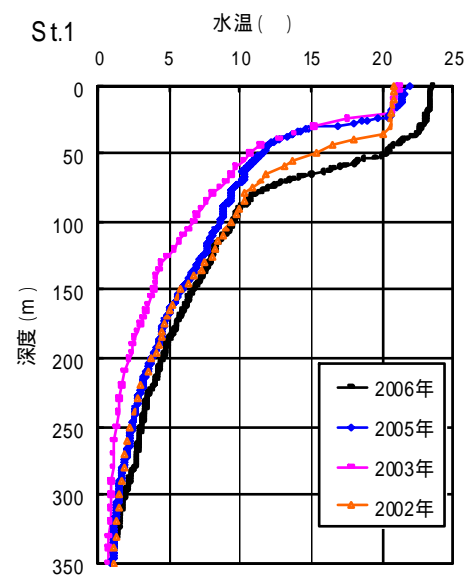
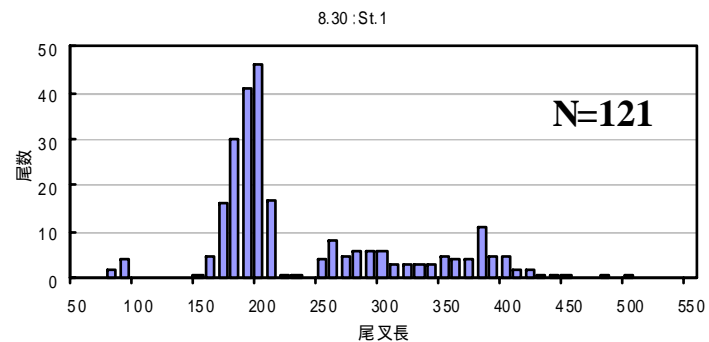
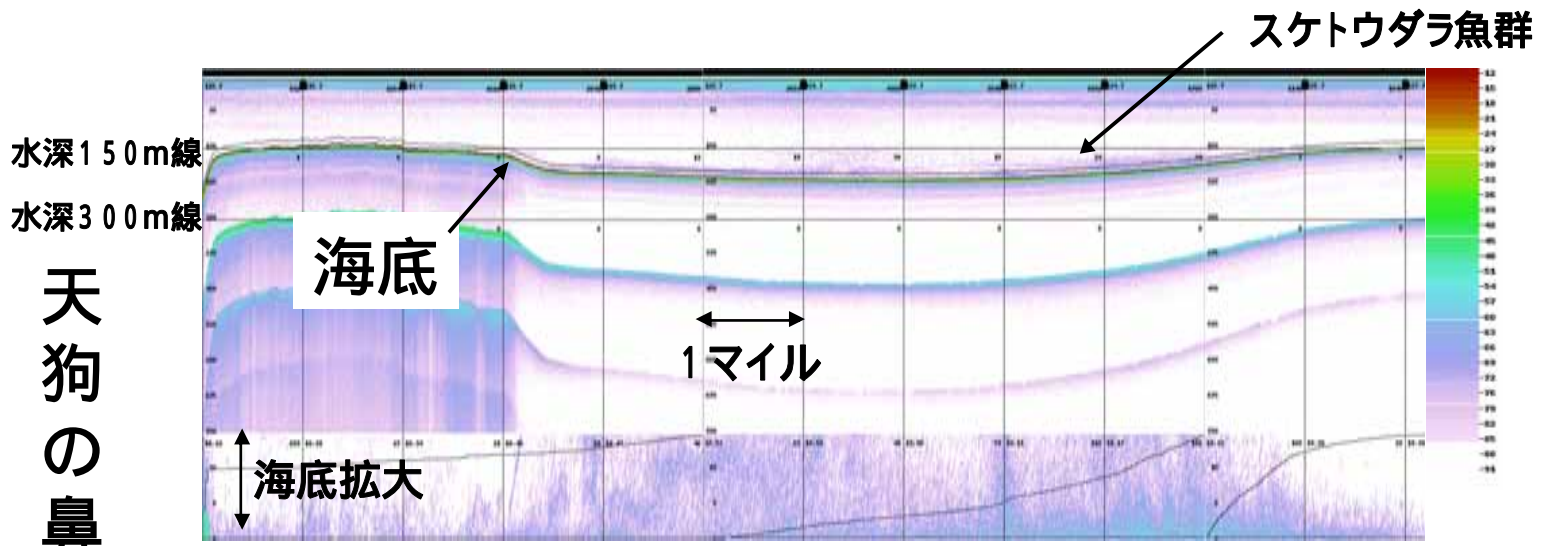


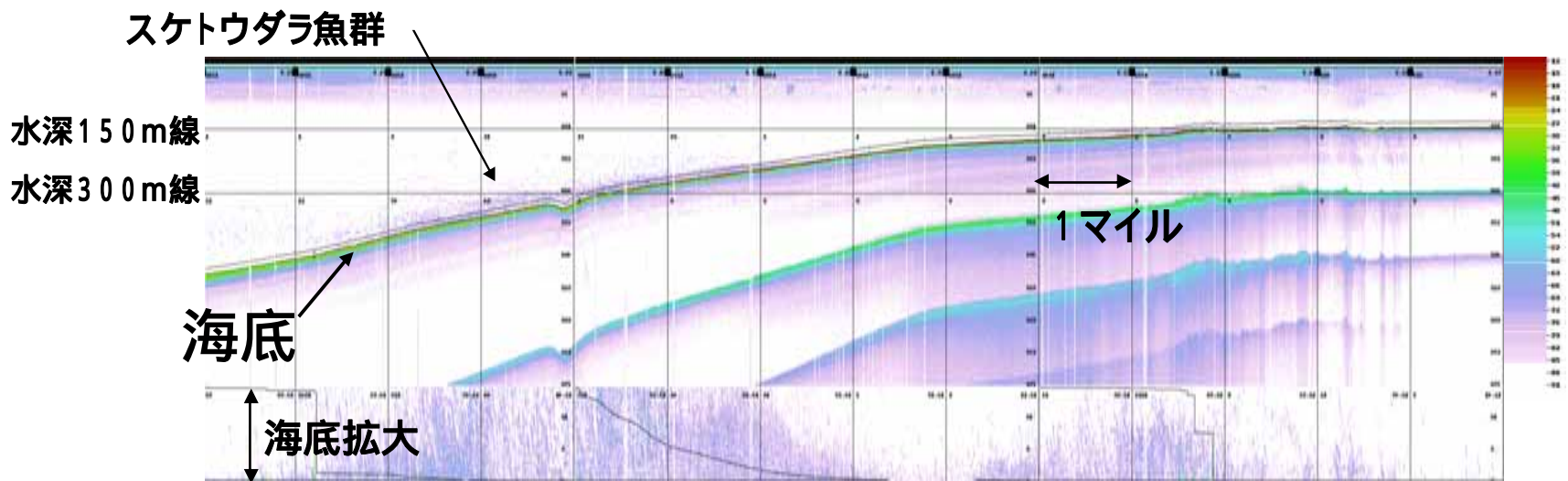
図2 着底トロールの漁獲結果とスケトウダラの体長組成



沖合

Cライン(沿岸寄り)の魚探反応

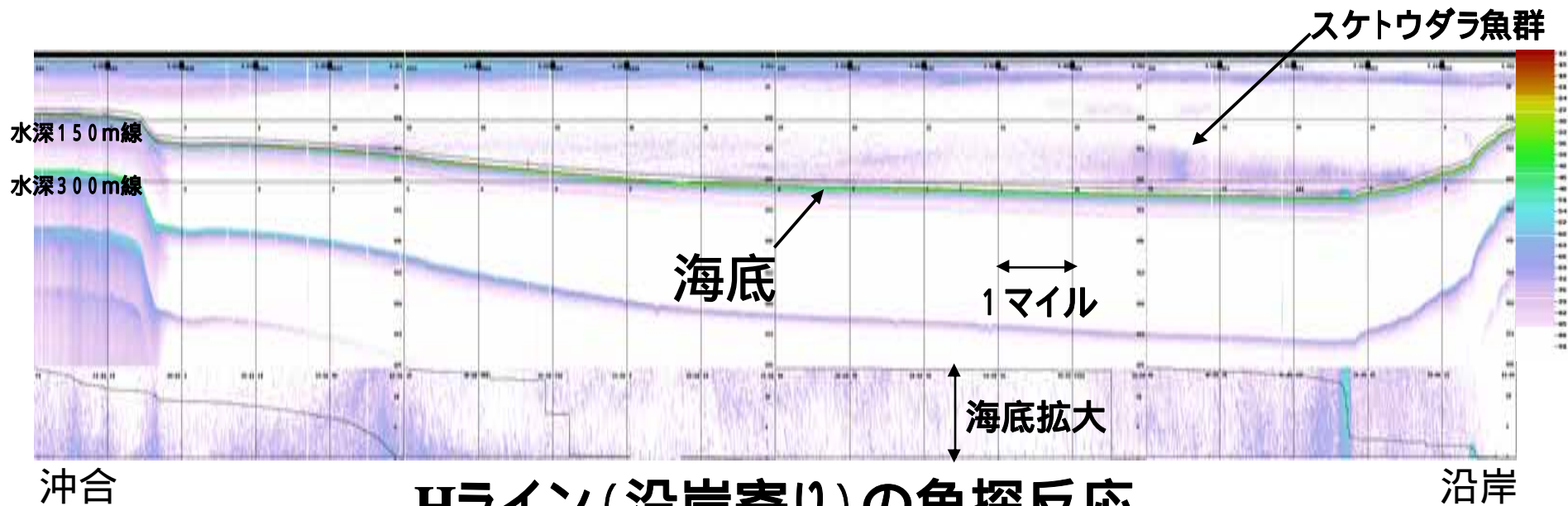
沿岸



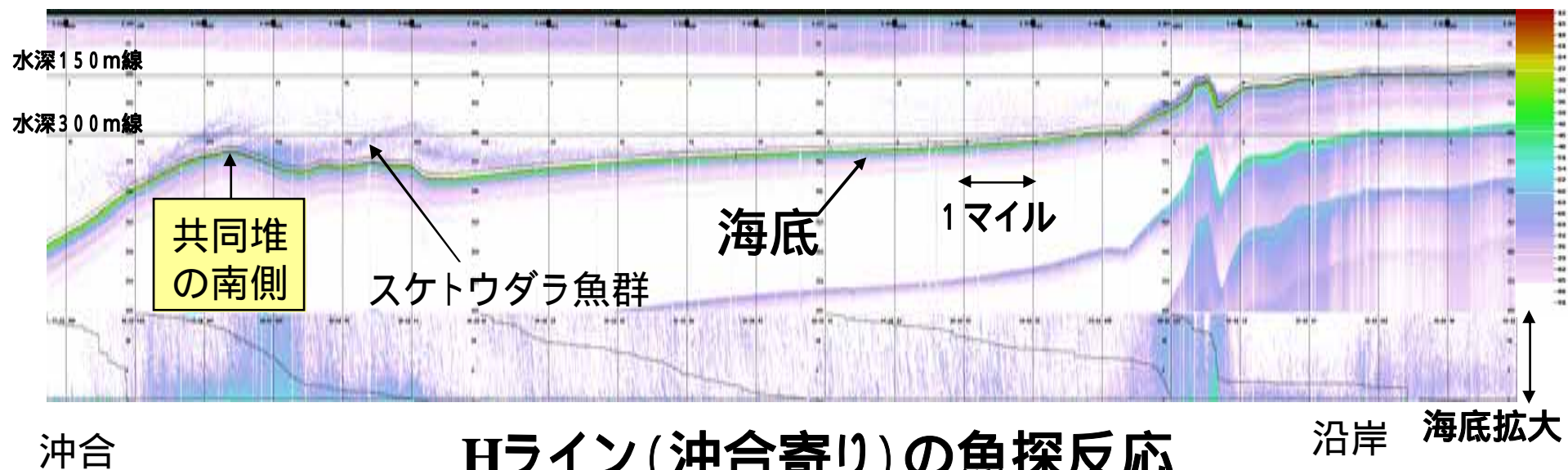
沖合

Dラインの魚探反応

沿岸



Hライン(沿岸寄り)の魚探反応



Hライン(沖合寄り)の魚探反応

